

特選 1 席

(選者五十音順)

・題詠・自由題の順に掲載

● 伊藤 一彦 選

山頂をながるる霧のたちまちに森を隠して蟬声途絶ゆ
二文字の名前は最も短き詩親の思ひを書きたび思ふ

高知 依光ゆかり
神奈川 青木 良子

● 大松 達知 選

ぎい、あれは風が山からおりる音 過ぎゆく恋のあと追うごとき
「六十年ぶりに息子と手をつないだ」変わりないかと医師に問われて

東京 楊井 裕美
茨城 宮本 華

● 岡井 隆 選

向日葵の俯くほそき雨の日は路地ゆく寺山修司のこころ
各部屋に妻の写真を飾り置き「ヨォ」とあいさつしながら通る

愛知 浅井 克宏
秋田 竹内 信吾

● 栗木 京子 選

山ならばパラチアンが良いと書くいつか来る日の散骨のため
キャンプとは楽しきものと思うらし五歳児は知らず難民キャンプ

アメリカ 西岡 徳江
宮崎 福留佐久子

● 黒瀬 珂瀾 選

遷座して還らぬ鉾^{やま}山の神南備の落葉を掃きに今朝も出て行く
もろもろに死後開封の名をつけてデスクトップの右隅におく

福岡 鹿子生憲二
茨城 加藤 宙

● 小池 光 選

山仕事を終えたる父が持ちくれしアルミ弁当箱に木いちご
平和の鐘聞きてしづかに黙禱しフライパンにひとつ卵を落とす

愛知 細川 延子
愛媛 前田 充

● 小島ゆかり 選

山姥のように広がる髪見せてやれば喜ぶ裸の子ども
朝採りの胡瓜のみどりみずみずし藤井四段の前傾姿勢

島根 綾部 未央
愛知 原 佳子

● 三枝 昂之 選

千年を信じる仕事 わたくしは子を育て子は山を育てる
素裸でこの世の人を見つめ居るアウシユヴィツツの写真の少女

岐阜 太田 宣子
埼玉 林 邦子

● 齊藤 斎藤 選

霧の中腕^{かいな}差しのべ笑い合うびしょぬれの髪山が好きだった
荷造りをくり返す母を園に訪ひチラシの箱を二人で折りぬ

福島 須木ひろ子
沖縄 石堂 和霞

● 坂井 修一 選

教室の児ら元気よく筆はこぶ「川」なめらかに「山」どつしりと
ボロボロの昆虫図鑑を傍らに眉寄せ語る博士は五歳

埼玉 森 暁香
石川 坂尻 敏枝

● 佐佐木幸綱 選

学習をしたるは山の熊なるか街に出で来て公園歩く
「資料5」と折れ線グラフに示されていけないことのような孤独死

秋田 福岡 麗子
兵庫 中島富美子

● 篠 弘 選

裏山は紅葉盛りと気づきたり告知の日より前のみを見て
時として裏を見せるが人のつね反転したる名札を下げて

長野 宮坂美恵子
栃木 松山 宏意



● 俵 万智 選

靴下の山をたためばくつ下がババ抜きみたく一枚あまる
心までさらされるよう「手術中好きな音楽かけます」なんて

長野 長谷川祐二
千葉 宮脇 泉

● 永田 和宏 選

幸せになりなと笑う強がりの君へ山なりのボールを返す
樟脳におう四人が乗り込んだ燕タクシー斎場へゆく

東京 飯坂友紀子
大分 檜垣 実生

● 東 直子 選

死ぬことは夢のつづきねお母さん山あじさいを胸に咲かしむ
雨の夜だんだん眠っていく僕は魚の顔に還っていくよ

神奈川 尾崎 裕美
熊本 くらだたけし

● 穂村 弘 選

帰還して海山川や光さえ我がものとなるふるさとの朝
北斎の水晶体が捉へたる雪の大江戸八百八町

福島 愛沢 崇
青森 木立 徹

● 道浦母都子 選

一枚の紙に折りこむ山と谷 平和を祈る鶴となりゆく
受付でもらった番号札にある5といふ数字にわたしが消える

栃木 松山 宏意
香川 森本 義臣

● 米川千嘉子 選

遷座して還らぬ鉾山やまの神南備の落葉を掃きに今朝も出て行く
産み月を迎えて揃いしバス・ベッドふと戦場の赤兎を想う

福岡 鹿子生憲二
青森 瓜田美保子



自由題 特選2席

伊藤 一彦 選

茨城 榎本 麻央

屈み込みをさなと話してるときわたしの言葉たぶんひらがな

大松 達知 選

山口 網屋 成身

秋蟬が仰向けになり死んでいたそつと掴めばまだ生きていた

岡井 隆 選

埼玉 古谷真利子

かたつむり這いたる跡のほの白き記憶の奥に行商の祖母

栗木 京子 選

福島 黒沢 亘子

老人病棟百余の膳のそれぞれに紅葉一ひらあしらわれており

黒瀬 珂瀾 選

埼玉 古谷真利子

かたつむり這いたる跡のほの白き記憶の奥に行商の祖母

小池 光 選

山形 村上 秀夫

病院をひとりで出ればおふくろよ生死を超えた大夕焼けだ

小島ゆかり 選

千葉 白石 勉

「氣いつけていき」と光の声したり昼寝る母に別れ告げれば

三枝 昂之 選

東京 小谷 笑子

美味しいね寒いね暑いね楽しいね伝える人の居ないあけくれ

斉藤 斎藤 選

東京 村田 知子

六十年前から六十歳だった気がする今日の夕焼けのいろ

坂井 修一 選

大阪 稲中 晴彦

夏風にそよぐ草原あゆむとき海原を割るモーゼみたいだ

佐佐木幸綱 選

兵庫 藤田 純乃

ひらがなの形の蝶が飛んでゆくカタカナ色のビルの谷間を

篠 弘 選

神奈川 稲見 陽子

本当の孤独を恐れ読んでいる『孤独のすすめ』スタバのすみで

俵 万智 選

兵庫 中島富美子

「資料5」と折れ線グラフに示されていけないことのような孤独死

永田 和宏 選

宮崎 福留佐久子

キャンプとは楽しきものと思っらし五歳児は知らず難民キャンプ

東 直子 選

青森 工藤 チエ

庭隅の露かきわけて茗荷つむ小さき母に朝光あふる

穂村 弘 選

東京 住友 秀夫

愛があるから大丈夫なのと歌うから若いと誰もが心配をする

道浦母都子 選

青森 小野 一男

秋の日の霊園に入りクレーン車は父母吊るごとく墓石吊り上ぐ

米川千嘉子 選

千葉 魚谷 蓉子

おかあさんいまわらつたでせう円楽の「藪入り」独りで笑つた私と